

上位葉の葉いもちが多いほ場で穂いもち多発の恐れ

～ ほ場の状況を確認し、穂いもち防除を徹底してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 8月1～2半旬に実施した抽出ほ場調査の結果（全県80地点調査）、全県の葉いもち発病株率が7.6%（平成4.3%）で高く、穂いもちの伝染源になる上位2葉の発病株率は2.4%（平成1.1%）で高かった（表-1、図-1、2）。
また、全県の発病地点率は30.0%（平成28.2%）で平成並、上位2葉の発病地点率は17.5%（平成13.6%）でやや高かった（表-1）。
- 2) 8月6日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量は多い、日照時間は平成並か少ないと予報されている。

以上のことから、葉いもちの多発ほ場及び上位葉で多く見られるほ場では穂いもちの感染が懸念されるため、次の防除対策を行う。

2. 防除対策

本年は、ほ場によって葉いもちの発生程度が異なるので水田内に入って発病状況をよく観察する。葉いもち多発ほ場及び上位葉（止葉及び次葉）に発病が認められるほ場では、穂いもちの発生・拡大を防ぐために、次により追加防除を実施する。

また、本年の出穂期は8月3日（平成8月3日）であり（各地域振興局）、ほ場の出穂状況に合わせて以下の防除対策を実施する。

- (1) 穂揃期の防除（トライ剤又はラブサイド剤）に加え、傾穂期に追加防除を実施する。傾穂期以降の穂いもち防除には、ラブサイド剤を使用する。
- (2) 無人航空機等による防除を計画している場合は、天候等により防除適期を逃す場合があるので、個人防除に努める。
- (3) 最終防除時期は出穂後25日頃までとし、防除に当たってはフサライド[※]の使用回数、収穫前日数に注意する。

※ラブサイド剤の有効成分であるフサライドの使用回数は3回以内で、使用時期は収穫7日前までである。

3. 資料

表-1 抽出ほ場調査における葉いもちの発生状況(8月1~2半旬)

	葉いもち 発病株率(%)	葉いもち 発病地点率(%)	上位葉葉いもち 発病株率(%)	上位葉葉いもち 発病地点率(%)
県北部	4.2 (3.5)	20.8 (26.0)	1.2 (0.9)	8.3 (14.2)
県中央部	0.5 (2.4)	4.2 (19.3)	0 (0.5)	0 (8.6)
県南部	15.0 (6.4)	56.3 (35.0)	4.9 (1.4)	37.5 (16.2)
全県	7.6 (4.3)	30.0 (28.2)	2.4 (1.1)	17.5 (13.6)
概評	多	並	多	やや多

()は平年値

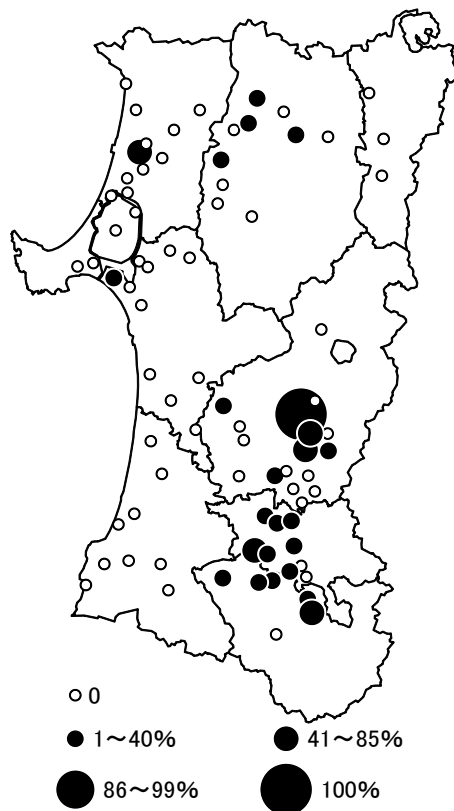


図-1 抽出ほ場における葉いもち
発病株率(8月1~2半旬)

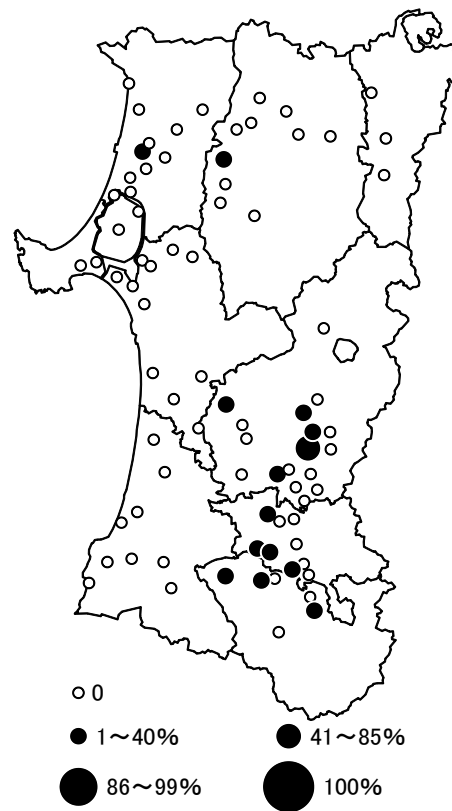


図-2 抽出ほ場における上位2葉
葉いもち発病株率(8月1~2半旬)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>